

「教える育てる道徳教育」指導資料

ふるさと とちぎの心

栃木県道徳教育郷土資料集（中学校編）



教師用指導書

平成26年3月
栃木県教育委員会

はじめに

平成18年に教育基本法がおよそ60年ぶりに改正されました。「人格の形成」を目指している我が国の教育において、一人一人の児童生徒が夢や希望をもち、自らの力で困難を乗り越え、力強く未来を切り拓いていける豊かでたくましい心を育てていくことが必要です。このような豊かな心の育成は、平成20年3月に告示された学習指導要領においても、改訂の柱の一つに位置付けられており、学校における道德教育の充実がこれまで以上に求められています。

栃木県教育委員会では、平成23年3月に策定した「とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）」の中で、道德教育の充実を重要施策の一つとして位置付け、道德教育に関する様々な取組を進めているところです。特に、日常的な生活場面を含むあらゆる教育活動の中で「人として、してはならないこと、すべきこと」をしっかりと教えるとともに、道德の時間を中心に、教えた内容との関連を十分に図りながら道德的実践力を育み、各学年段階で必要な道德性を身に付けさせたいと考え推進している「教え育てる道德教育」は本県独自に掲げているものです。平成23、24年度には「とちぎの子どもたちへの教え～人として、してはならないこと、すべきこと～」リーフレットや、『とちぎの子どもたちへの教え』指導事例集』を発行し、「教え育てる道德教育」の「教える」部分に焦点を当てて資料を作成してきました。このたびは「育てる」部分にも焦点を当てて道德の時間の充実に資するため、「ふるさととちぎの心 栃木県道德教育郷土資料集（中学校編）」を作成しました。本県の子どもたちが、栃木県に関わりの深い人物の思いや生き方、自然や伝統文化のすばらしさについて考えることを通して、豊かな心を育むとともに、自分自身、家族、そして自分たちの住む地域に誇りをもった人になってほしいと願っています。

また、本書「ふるさととちぎの心 栃木県道德教育郷土資料集（中学校編）教師用指導書」は、各読み物資料の解説や、道德の時間に活用する際の展開例、留意点等を示しています。各学校におかれましては、本資料集刊行の趣旨を御理解いただき、積極的に活用され、生徒一人一人の心に響く道德教育が展開されますよう御期待申し上げます。

終わりに、本資料の作成に当たり御尽力いただきました関係者の皆様に、心から感謝の意を表します。

平成26年3月

栃木県教育委員会教育長 古澤 利通

目次

はじめに

	資料名	道徳の内容項目		とちぎの子どもたちへの教えとの関連	頁
1	大いちょうへの思い 希望 のあさがおへと続く	1- (2)	希望・強い意志		1
2	日光の絵師・塗師 吉原昭夫 (雅号 北宰)	1- (2)	強い意志		3
3	オリンピックへの道	1- (2)	強い意志		5
4	生きがい —水害からの再出発—	1- (2)	希望・勇気・強い 意志		7
5	心をかたちに	2- (1)	礼儀	時と場合に応じた適切な言動をとる	9
6	十七才のキミへ	2- (3)	真の友情		11
7	「三. 一一震災」を経験して	2- (6)	感謝		13
8	生命の輝き	3- (1)	生命尊重	自他の生命を尊重する	15
9	三個の小石 —僕の田中正造研究—	3- (3)	強さ・気高さ・生 きる喜び		17
10	那珂川とともに	4- (1)	法やきまりの遵 守	法やきまりの理解を深 める	19
11	この子たちに輝く場を	4- (2)	社会連帯	地域社会の一員として の自覚をもつ	21
12	コタンの高橋医師	4- (3)	差別や偏見のな い社会の実現		23
13	「茂中の森」の下草刈り	4- (4)	役割と責任の自 覚	様々な集団の意義につ いて理解する	25
14	あるサッカー選手の決断	4- (4)	役割と責任の自 覚	様々な集団の意義につ いて理解する	27
15	ねずみ観音の思い出	4- (6)	家族愛		29

参考資料..... 31

- ・「とちぎの子どもたちへの教え ～人として、してはならないこと、すべきこと～」
- ・現職教育資料「学校における道徳教育の充実 ～道徳教育の基本的な理解のために～」

1 大いちょうへの思い 希望のあさがおへと続く

【資料本文 p.1】

1 資料について

- ・ この資料は、2012年（平成24年）に行われた第35回栃木県少年の主張発表河宇地区大会での中学生の発表を基にして作成したものである。
- ・ 中学校に入学してから「大いちょうプロジェクト」の一員となった「私」は、「悲惨な戦争を乗り越えた大いちょうの姿を通して、平和の尊さや命の大切さをたくさんの人に伝えていきたい」という目標を掲げ、その目標の達成を目指して大いちょうの苗を地域の方々や小学生に配ったり、希望のあさがお運動を行ったりしていく。活動を始めたころの「本当にこれでよいのだろうか」という気持ちから、「自分たちで頑張ろう」と積極的に活動を行うことへの気持ちの変化によって、「やってよかった」という心地よい充実感や達成感を「私」は感じ始める。中学生である「私」の気持ちや言動を通して迷いや不安を感じながらも、粘り強く最後まで着実にやり抜こうとする強い意志や態度に気付かせていきたい。

2 展開例

(1) ねらい

自分で決めた目標の達成を目指し、粘り強く最後まで着実にやり抜こうとする心情を育てる。
〔1－(2) 希望・強い意志〕

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 展開前段では、基本発問や中心発問の際に、宇都宮市の指定天然記念物になっている大いちょうや宇都宮大空襲、東日本大震災やあさがおなどの写真や資料を効果的に活用することで、理解を深めたい。
- ・ 学年・学級の実態によっては、『大いちょう』から『希望のあさがお』へと中学生の活動が継続的に広がりを見せることができるようになった理由は、どこにあるのだろう。」という問いを中心発問にする展開も考えられる。
- ・ 展開後段では、ワークシートを活用して自分の考えをまとめたり友達との発表を通して考えを交流したりすることで今までの自分を振り返り、価値の内面化を図るようにしたい。
- ・ 終末では、困難に直面して挫折しかけたが、目標をもって粘り強くやり抜いた人物（教師自身でも可）についての話をすることで、生徒の心情に訴えたり深い感銘を与えたりすることができるようにしたい。生徒一人一人がこれまでの生活や学習について振り返ることで、例えば学習や部活動などにおいて目標を掲げ、その達成に向けて意欲的に取り組めるようにさせたい。「自分でもやり遂げられる」という気持ちをもたせたい。
- ・ 平和の尊さや命の大切さという言葉に着目すると、内容項目3－(1) 生命尊重で扱うことも考えられる。

4 参考資料等

- ・ 第35回栃木県少年の主張発表河宇地区大会記念文集「平和を願う私の取組」2012年

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 中学生になって「自分が頑張ろう」と決めたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中学生になって頑張ろう」と決めたことを発表しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テニス部に入って、県大会出場を目指したい。 ・ 毎日2時間以上は勉強するようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中学生になって頑張ろう」と決めたことを互いに発表し合うことで、本時の道徳的価値への意識付けや方向付けができるようにする。
展開	2 資料を読み、「私」の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生のときの「私」はどんな気持ちだっただろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 不安だ。 ・ これで本当にいいのかな。 ・ 私のやるべき活動を見つけて実行しよう。 ○ 「よし。」と決心したときの「私」は、どんな気持ちだっただろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちがやるぞ。 ・ とにかく行動しよう。 ・ みんなで協力して頑張ろう。 ◎ 「これでよかったんだ。」とあるが、「私」がそんな気持ちになれたのはなぜだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 迷いながらも続けてきて本当によかったと思ったから。 ・ いろいろと考えてきたけれど、最後までやり抜くことができたから。 ・ 「私」が「大いちょうプロジェクト」で何をするかを決めるとともに、活動を発展させることができ嬉しかったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大いちょうや宇都宮大空襲に関する資料を提示するとともに、先輩たちと一緒に何となく取り組んでいた1年時での「私」の気持ちに共感することができるようにする。 ○ 「よし。」という言葉に続く「私」の気持ちを想像することで、平和を願う「私」の強い意志や思いに気付かせる。 ○ 試行錯誤を繰り返しながらも、よりよい活動を目指した「私」の気持ちや言動に寄り添って考えることができるようにする。 ○ いろいろとやってみたが、なかなか結果が出なかった「私」の気持ちを振り返るようにする。 ○ 自分自身の気持ちと正面から向き合い、自分で立てた目標の実現を目指していくことこそが大切であることに気付かせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 迷いながらも自分で決めて行動する「私」と同じような経験はあるか。また、そのとき、あなたはどのような気持ちでしたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後までやり遂げてよかった。 ・ もやもやした気持ちに負けてしまいそうになり、逃げ出したいと思った。 ・ 結果的には思うようにいかなかったけれど、一生懸命頑張ったからよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成功体験はもちろん、模索しながらも「自分が頑張ろう」と決めた事を進めたり、途中で挫折してしまったりした経験談についても認めることで、生徒一人一人が前向きに考えることができるようにする。
終末	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標をもって努力することの大切さに気づき、生徒一人一人が自信をもてるようにする。

2 日光の^{えし}絵師・^{ぬし}塗師 ^{よしはらあきお}吉原昭夫（^{がごう}雅号 ^{ほくさい}北宰）

【資料本文 p.5】

1 資料について

- ・ この資料は、日光に存在する数々の文化財の保存修復を行った吉原昭夫さんを題材にした読み物資料である。徒弟制度的な習慣が残る世界で、もがき苦しみながら技術を学び取り、病弱な体にむち打ちながら技術を磨いていき、絶えず逆境に立ち向かっていった生涯は、生徒たちにとって人生の先輩として尊敬できる存在になると思われる。
- ・ 何気ないきっかけで、絵を習い始めた昭夫であるが、みるみるうちに絵の技術が上達していった。やがて、『日光二社一寺国宝建造物修理事務所』に入所し、^{よしだごとう}吉田悟堂に弟子入りする。礼儀や作法の教育に厳しい師のもとで、つらい日々を過ごしながら修行を続け、ついには文化財に対する師の教えを悟る。それからの昭夫は病身ながらも文化財の修復に打ち込んでいった。
- ・ 礼儀や作法の教育に厳しい師の対応や先輩からの嫌がらせによって、好きな絵の仕事を辞めてしまおうとした昭夫の弱さをじっくりと受け止めさせたい。昭夫のような考え方は誰にも共通するものであり、身近な問題として捉えることができる。その上で、悟堂の真の気持ちが分かったときの昭夫の心情に十分浸らせたい。さらに、なぜ病身ながらも文化財の修復に打ち込んだのかについて考えさせることで、ねらいに迫りたい。

2 展開例

(1) ねらい

困難に屈しないで、最後まで粘り強くやり抜く強い意志と態度を育てる。

〔1－(2) 強い意志〕

(2) 展 開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 日本で世界遺産に登録されているものや登録を目指しているものの資料、日光二社一寺に関する資料等を用意しておく。
- ・ 礼儀や作法に関する教育の厳しさ（例 正座の仕方など）を、学級活動や他教科等で体験させるなどの関連を図りたい。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」（栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会）から再掲載

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 日本で世界遺産に登録されているものや、登録を目指しているものには、どんなものがあるかを知る。	○ 日本で世界遺産に登録されたものや登録を目指しているものには、どんなものがあるだろう。(写真・掲示資料) <提示例> 世界遺産の例として ・登録済：日光の社寺、富士山など ・活動中：足尾銅山、足利学校など(平成26年3月現在)	○ 世界遺産の登録や維持・更新のために働いている人がたくさんいることや、その中には、保護や修復を行っている人もいることに触れる。
展開	2 資料を読み、昭夫の気持ちを考える。	○ 悟堂を恨んだり、辞表を書いたときの昭夫は、どんな気持ちだっただろう。 ・何で私だけこんな目に遭うのか。 ・つらい、苦しい、悲しい。 ○ 「先生、もう何も言わなくても分かっています。」とつぶやいたときの昭夫は、どんな気持ちだっただろう。 ・息子のように育ててくれてありがとうございました。 ・技術だけでなく、前向きに取り組む姿勢の大切さが分かりました。 ◎ なぜ昭夫は、病身の体を奮い立たせてまで、文化財の修復に打ち込んだのだろう。 ・悟堂の教えだから。 ・文化財のため(後世のため)に。 ・生きがいだから。 ・自分で決めたことだから。	○ 昭夫の気持ちに十分共感させるようにする。 ○ 「いつからそう思うようになったか。」や「なぜそう思うようになったのか。」等の補助発問により、感謝の気持ちをもつようになった過程や理由についても考えさせるようにする。 ○ 文化財の修復という仕事を、精一杯、最後までやり抜こうとしている昭夫の姿勢や強い意志に気付かせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの生活から、くじけずに最後までやり抜くことができた経験を思い出し、ワークシートに書いてみよう。 ・目標があったので、最後まで頑張ることができたこと。 ・小さな成功が、さらに自分のやる気につながったこと。	○ 粘り強く着実に取り組んだことや努力を続けることで、最後までやり抜くことができたことなどを、具体的に書かせるように、時間を十分確保する。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 目標に向かい、困難に負けず、最後までくじけずやり通した教師の体験談などの話をする。

3 オリンピックへの道

【資料本文 p.9】

1 資料について

- ・ この資料は、長距離走選手である鈴木従道^{つぐみち}さんが箱根駅伝やオリンピック出場を目指し、挫折を経験しながらも、日々努力を積み重ねていく姿を描いたものである。
- ・ 高等学校に進学してから本格的に陸上競技に取り組んだ主人公は一つのチャンスを与えられ挑戦する。強力な選手たちを見て自信を失いかけるが、先生の言葉に励まされ快走する。大学進学後の箱根駅伝出場に向けての地道な努力、そして総合優勝となった4年生のとき、4年生の中で自分一人だけが区間賞を獲得できなかった悔しさ、その悔しさをばねにして、オリンピック出場を果たした主人公の心の動きが描かれている。
- ・ ものごとを成し遂げようとしても、困難に直面すると簡単に挫折してしまう中学生も多い。壁にぶつかっても、周囲の人たちに支えられながら目標に向かって努力する主人公の気持ちに共感させ、積極的に生きることへの希望とより高い目標をもち、それに向かって努力する強い意志について考えさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

より高い目標をもち、それに向かって粘り強く着実にやり抜こうとする態度を育てる。

[1 - (2) 強い意志]

(2) 展 開 (ページ右)

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 事後指導では、学習や部活動などにおいて日常的な努力で達成できる目標をもたせ、達成できたときの成就感や満足感を繰り返し味わわせることが大切である。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」(栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会) から再掲載

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 陸上競技の長距離走についてイメージをもつ。	○ 長距離走にどのようなイメージをもっているか。 ・長い距離を走る。 ・つらいスポーツ。	○ 写真やVTRなどを活用し、長距離走のイメージをもたせる。
展開	2 資料を読み、主人公の気持ちを考える。	○ 「第1区を走ってみないか。」と先生から言われたとき、どんな気持ちだっただろう。 ・自分に務まるだろうか。 ・これまで練習してきた成果が認められた。 ○ 箱根駅伝の1回目の選手選考記録会の後、トレーニングをしているとき、どんな気持ちだっただろう。 ・つらい、やめたい。 ・みんなに申し訳ない。 ・2回目の選考記録会では、もっとよい結果を出したい。 ・もっと練習して、箱根駅伝で走りたい。 ◎ 大学4年生の箱根駅伝で総合優勝したとき、どんな気持ちだっただろう。 ・総合優勝できてうれしい。 ・これまでの努力が優勝に結び付いた。 ・区間賞が取れずに悔しい。 ・もっと練習しよう。 ○ 主人公がオリンピックにまで出場できたのはなぜだろう。 ・練習を続けてきたから。 ・目標をもっていたから。	○ 戸惑いの中にも、日々の練習の成果が認められた喜びに気付かせる。 ○ 本人の自信や周囲の期待に反し、思うような結果が出なかった気持ちや、トレーニングのつらさに共感させる。 ○ 箱根駅伝に向けて努力し、総合優勝できた喜びより、自分だけが区間賞をとることができなかった悔しさに共感できるようにする。 ○ 常により高い目標を意識し、努力し続けてきた姿勢に気付かせる。
	3 これまでの生活を振り返る。	○ つらいことにぶつかってもあきらめず、目標をもって努力してきたことがあったかどうか振り返ってみよう。	○ 目標に向かって努力できた経験を振り返り、達成できたときの成就感や満足感などを取り上げる。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 困難に直面して挫折しかけたが目標をもって粘り強くやり抜いた内容の作文を読む。

4 生きがい —水害からの再出発—

【資料本文 p.13】

1 資料について

- ・ 1998年（平成10年）8月末の那須水害は多くの被害をもたらし、また、被害に遭った人たちの心にも多くの傷を負わせた。佐藤さん一家も今まで築き上げてきた酪農家としての全てを失い、茫然自失となって立ち上がれない状態にあった。しかし、苦難を乗り越え、「もう一度酪農をやろう。」と立ち上がった佐藤さん。そして、一緒に酪農をやると決意した息子の和幸さん。彼らを支えたのは、酪農への強い思いと家族の協力・思いやりだった。
- ・ 中学3年生にとって間近に迫っている進路選択は大きなプレッシャーになることがある。佐藤さん親子の困難に負けずに自分自身で決めた目標に向かって努力していく生き方に共感させたい。
- ・ 佐藤さんを支えたのは家族や周囲の人々の協力であったように、生徒一人一人にも愛し支えてくれている家族や周囲の人々がいることを再認識させたい。

2 展開例

(1) ねらい

障害や困難にくじけることなく、目標に向かって粘り強く努力しようという意欲を高める。
〔1－（2）希望・勇気・強い意志〕

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 実際に家族が被害に遭った生徒がいる場合には配慮をする。
- ・ 事前に、進路の選択に当たって悩んでいることがないか考えさせる時間をとる。
- ・ 職場体験学習などを既に行った場合には、仕事の大変さや、喜びなどを振り返らせ、佐藤さん親子がどんな気持ちで酪農を再開することを決めたか考えさせる。
- ・ 学習や進路決定において各自の目標をもたせ、それが達成できるように支援する。各自の目標達成を称賛し、成就感を与え、より高い目標に向かって努力できるように指導する。
- ・ 生徒の発達の段階や実態により、価値理解を図るために、展開の前段と後段の間に、『水害があったから今の自分がある』という言葉は、私たちに何を教えてくれているのだろう。』という発問を入れることも考えられる。
- ・ 佐藤さんの酪農再開を決定付けたのは家族の協力であることに着目すると、内容項目4－（6）家族愛で扱うことも考えられる。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」（栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会）から再掲載
- ・ NHK「新日本探訪・那須の大地に夢を託して」
- ・ 下野新聞「1200ミリの衝撃、那須水害3」（1998年9月9日）
- ・ 協力者 佐藤一男氏、佐藤和幸氏

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 那須水害について知る。	○ 過去に那須地方で大きな水害があったことを知っているか。 ・親戚や友達から話を聞いたことがある。 ・そんな大きな水害があったことなんて知らなかった。	○ 映像や写真、新聞記事などを活用して、那須水害がいかに大きな水害であったかについて知らせる。
展開	2 資料を読み、和幸さんの気持ちについて考える。	○ 突然の水害で、牛も家も牛舎も失い、悩む父親の姿を見て、和幸さんはどんな気持ちだっただろう。 ・これから家族や牧場はどうなってしまうのだろう。 ・家族みんなで親父や牧場を支えるしかないが、今の自分に何ができるだろう。 ・どうしてこんなことになってしまったんだ。もうダメだ。 ○ 家族会議の末、和幸さんが「俺にも手伝わせてくれ。」と決意したのはどうしてだろう。 ・父親の酪農に対する思いの強さを知ったから。 ・あきらめない父親の思いに自分も協力したいと思ったから。 ・父親が大切にしている酪農を自分が引き継いでいかなければならないと思ったから。 ◎ 和幸さんは、これまでの振り返って、どんな気持ちで酪農に取り組んでいるのだろう。 ・水害に負けずに家族で頑張ってきた本当によかった。 ・自分も親父のように信念をもって仕事に打ち込める人間になりたい。 ・家族や周囲の人々が協力し合うことで自分は支えられている。 ・これからもどんな困難にも負けず、新しい目標に向かって頑張りたい。	○ 水害は自分たちの力ではどうにもならないものであり、どこにもぶつけようのない怒りと失望に襲われる現実を理解させたい。 ○ 現実的に酪農以外の将来を考えてしまう弱気な自分とは反対に、自分の信念を貫こうとする父親の思いの強さを知り、新たな目標に向かって努力しようと思った和幸さんの気持ちの変化に気付かせる。 ○ 家族や周囲の人々の思いやりや協力が、くじけそうな心や再建を支えたことにも気付かせたい。 ○ 仕事を「生きがい」と話すことから、働くことは大変であると同時にやりがいや喜びがあるという和幸さんの職業観にも気付かせたい。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの生活で、つらいことや困難なことにぶつかったときに、あきらめずに努力し続けた経験について振り返ってみよう。	○ これまでの経験とともに、そのときの自分の気持ちについても振り返ることができるようにする。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 教師自身の経験談を紹介し、余韻をもって授業を終わらせる。

5 心をかたちに

【資料本文 p.17】

1 資料について

- ・ 礼儀の基本は、相手を一個の人格として認め、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となってはじめてその価値が認められる。これは、人間関係や社会生活を円滑にするために創り出された優れた文化の一つでもある。
- ・ この資料は、中学生の「私」がホテルでの職場体験学習を通して、成長していく話である。小さい頃に見たホテルマンを主人公にしたドラマの影響から、ホテルでお客様のために働くことが「私」の夢になる。職場体験学習では、迷わずホテル業を希望し、伝統と格式のある地元のホテルに決まる。期待と不安に胸を膨らませながら始まった職場体験学習であるが、「私」は思うようにいかない壁にぶつかる。挨拶と掃除は接客の大切な基本であることを認識しながらも、その繰り返しの日々徐々に心が重くなっていく。しかし、最終日の夕方、女性の宿泊客が掛けてくれた一言が、「私」に大切なことを気付かせる。「私」の気持ちに共感させながら、よりよい人間関係を築くためには、何が必要なのかを考えさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

礼儀の意義を理解し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことで、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を育てる。 [2－(1) 礼儀]

とちぎの子どもたちへの教え「時と場合に応じた適切な言動をとる」と関連

(2) 展開 (ページ右)

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 指導に当たっては、中学生の発達段階を十分踏まえながら、学校生活や家庭での生活において礼儀の意義と大切さを考えさせ、その自発的な実践への意欲を高められるようにする。(挨拶等と関連付けて)
- ・ 終末で、「私たちの道徳」を活用して余韻を残す方法もある。
- ・ 将来の夢について考える活動や職場体験学習と関連させて、礼儀の意義を深く理解できるよう指導することも考えられる。

4 参考資料等

- ・ 日光金谷ホテルホームページ <http://www.kanayahotel.co.jp/nkh/>
- ・ 金谷 真一 著 「ホテルと共に七拾五年」 金谷ホテル
- ・ 写真提供…日光金谷ホテル

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 日常生活における礼儀について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親や友達、または先生と接するときに大切にしていることはどんなことだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考え、行動する。 ・礼儀をわきまえた言動をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ねらいとする道徳的価値への意識付けや方向付けができるようにする。
展開	2 資料を読み、主人公の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「私」は職場体験先が決まったときどんな気持ちだっただろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・うれしかった。 ・頑張ろうと思った。 ・不安になった。 ○ 「私」はどんな思いから、大きなため息をつくようになったのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶がお客様に届かない歯がゆさや体の痛みなどがあるから。 ・挨拶や掃除が大切なのはわかるが面倒くさいと思ったから。 ・挨拶や掃除ではお客様に満足は与えられない。もっとお客様に直接関わりたいと思ったから。 ◎ 女性の言葉を聞いた「私」は、どんなことに「はっとした」のだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・喜んでくれる人がいたこと。 ・挨拶と掃除がとても大切なものであると分かったこと。 ・大切なのは相手への思いをしっかりと行動で表すことだと気付かされたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の希望が叶った喜びや不安を確認する。 ○ 挨拶や掃除の繰り返しに不満を感じている主人公の気持ちに共感させる。 ○ よりよい人間関係を築くには、相手に対する敬愛の気持ちを持ち、きちんと行動に移すことが大切であることに気付いた主人公の変容を捉えさせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで礼儀は大切だと感じたことはあるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・元気に挨拶したら、すがすがしい気持ちになった。 ・職場体験学習で行った会社の方が、丁寧な言葉遣いで話をしてくださり、気が引き締まった。 ・部活動の試合の後、相手チームから改めて「ありがとう」と言われ、心が温かくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭生活や学校生活の中で、お互いが気持ちよく生活できるためには何が大切なのかを、自分を振り返りながら考えられるよう配慮する。
終末	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 余韻をもって授業を終わらせる。

6 十七才のキミへ

【資料本文 p.21】

1 資料について

- ・ この資料は、ラグビーの練習中に頸椎損傷というアクシデントに遭ったが、周囲の人々に支えられながらリハビリを続け、現在はカメラマンとして活躍するシギー吉田さんの人生を基にしたものである。特に、高校時代からの親友である石井さんとの深い信頼に基づいた友情が、吉田さんの生き方を変えたきっかけになったことは、中学生にとって大きな感動を呼ぶものだろう。
- ・ 後日談として、クラスメイトの友情について述べている。狭い範囲の中だけで友情を求めがちな中学生が、視野を広げ、尊敬と信頼に支えられた友情を積極的に育てようとする意欲を高めるようにさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

真の友情や友の尊さを理解し、信頼と敬愛の念に支えられた友人関係を積極的に築こうとする態度を育てる。 [2 - (3) 真の友情]

(2) 展開 (ページ右)

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 資料が長いので、導入を次のように工夫する。
例：事前にアンケートをとり、友達是自己にとってどんな存在か書かせる。生徒の素直な言葉を生かしたアンケート結果を提示し、クラスメイトが出した言葉に共感できるようにする。
- ・ 「私」と石井との関わりから、単なる部活動仲間というだけでなく、つらいことを共有したり、乗り越えたりして信頼関係を築き、それを基盤として友情が育まれるものであることに気付かせたい。また、楽しいときや都合のよいときばかりでなく、苦しいときも互いに励まし合う友情が、人間としてよりよく生きようとする意欲へとつながることに気付かせたい。
- ・ インターネットの後日談を基に、自分自身が積極的に関わることで、生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情を育むことができるということに気付かせたい。
- ・ 終末で、これまでの自分自身の友達との関わりを振り返らせ、これからの課題について考えさせる。

4 参考資料等

- ・ 下野教育 (平成24年11月号) 掲載「十七才のキミへ (シギー吉田講演会)」

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 アンケートの結果を見て、「友達」について考える。	○ あなたにとって友達とはどういう存在だろう。 ・大切な存在。 ・一緒にいて楽しませてくれる存在。 ・心が安らぐ存在。 ・悩みの相談にのってくれる存在。	○ 現時点での素直な考えを出すようにする。アンケート等を実施し、互いに共感し合う雰囲気をつくる。
展開	2 資料を読み、「私」の心情を考える。	○ 「一通のはがきは、どんな励ましの手紙よりも心にしみた。」とあるが、「私」にとって石井はどのような存在だったのだろう。 ・かけがえのない仲間。 ・自分の気持ちを理解してくれている。 補：石井はどうして毎日のようにお見舞いに行ったのだろう。 ○ 「私自身の経験から、逆境にいるときこそ、同じ時代を一緒に生きる友の存在が大切なんだ」とあるが、それはどういうことだろう。 ・石井との友情があったから、今の「私」がある。 ・楽しいときばかりでなく、つらいときにこそ支えるのが友達だ。 ・励ましてくれる友達がいるからこそ自分も頑張ることができる。 ◎ 「大切な宝物は、今何気なく過ごしている日常の中に埋もれている」とあるが、「私」は自分の経験から、どんなことに気付いたのだろう。 ・友達といることが当たり前だと思っていて、つい軽く考えてしまう。 ・いつも一緒にいる仲間ばかりでなく、学校生活の中に、大切な友達がたくさんいる。 ・自分から積極的に関わっていけば、これからも信頼できる友達をつくることができる。	○ 「私」と石井の関係が単なる部活動の仲間だけでなく、お互いを思いやる友情によって結ばれていることを捉えさせる。 ○ 石井と「私」との関係のように、苦しいときにも互いを尊重し励まし合う友情が、人間としてよりよく生きようとする意欲へとつながることに気付かせる。 ○ 学校生活の多くの場面において、自分の視野を広げ積極的に関わっていけば、生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情を育むことができることに気付かせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの自分自身と、友達や仲間、クラスメイトとの関わりについて、感じたことや考えたことをワークシートに記入しよう。	○ これまでの自分と友達、クラスメイトとの関わりについて振り返らせる。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 友情に関わる話で余韻を残す。

7 「三. 一一震災」を経験して

【資料本文 p.25】

1 資料について

- ・ 人は、決して一人では生きられない。人間は互いに助け合って生きている。この互いの助け合いや協力を根底で支えているのは、感謝の心である。中学生の時期は、自立心の強まりとともに、日々の生活を支えてくれる多くの人の善意や支えに気付く一方で、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさも感じる時である。こうした時期に、多くの人々の善意や支えにより、現在の自分があることに感謝し、それに応えようとする気持ちを育てていくことが必要である。
- ・ 2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災は、本県にも大きな被害をもたらした。その中でも市貝中学校は校舎損壊という被害を受けた。この資料は、その事実を基に、卓球部の一員である美咲の心情を描いた創作である。今まで当たり前だと思っていたことができないことへのいらだちや不満を募らせる美咲であったが、自分たちのために優先的に練習場所を提供してくれ、励ましの言葉を掛けてくれる人々に出会う。多くの人の支えによって今の自分があるということに気付き、心揺れる美咲の様子を描いた作品である。葛藤する美咲に自分を重ねさせ、今ある生活は、多くの人の支えによって成り立っているものであることに気付くと同時に、当たり前のことが当たり前に行えることの有難さについても感じさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

普段の生活は多くの人々の支えによって成り立っていることに気付いて感謝するとともに、それに応えて生活していこうとする態度を育てる。 [2 - (6) 感謝]

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 東日本大震災発生後のボランティア活動や救助の様子がわかる資料を用意し、導入の段階で活用する。
- ・ 被災し、避難している生徒がいる場合には、資料の取扱いに十分留意する。
- ・ 展開前段で生徒がねらいとする道徳的価値を理解しているか確認するために、「この震災の経験から美咲はどんなことを学んだのだろう。」と生徒に問うことも考えられる。
- ・ 終末でねらいとする価値に関する教師の説話を行うほかに、以下の資料の紹介も考えられる。

「第84回選抜高等学校野球大会開会式選手宣誓」

宣誓。東日本大震災から一年、日本は復興の真っ最中です。被災された方々の中には、苦しくて心の整理がつかず、今も、当時のことや亡くなった方のことを忘れられず、悲しみにくれている方がたくさんいます。

人は誰でも答えのない悲しみを受け入れることは悲しくてつらいことです。

しかし、日本が一つになり、その苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じています。

だからこそ、日本中に届けましょう。感動、勇気、そして笑顔を見せましょう、日本の底力、絆を。

我々、高校球児ができること、それは、全力で戦い抜き、最後まであきらめないことです。

今、野球ができることに感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います。

平成24年3月21日 宮城県立石巻工業高等学校野球部主将 阿部翔人

4 参考資料等

- ・ 毎日新聞「見えない壁 大震災・とちぎの現場から」2012年（平成24年）3月10日

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 東日本大震災発生後に、被災地で行われたボランティア活動や救助活動の様子を知る。	○ 東日本大震災発生後、被災地ではどのようなことが行われたのか振り返ってみよう。 <提示例>炊き出しや救助活動などの写真や新聞記事	○ 震災発生後に被災地ではどのような支援が行われたかを簡単に紹介し、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開	2 資料を読み、美咲の気持ちを考える。	○ 全国大会が中止になったと知らされた美咲はどんな気持ちだっただろう。 ・頑張っていたから悔しい、残念。 ・何で私だけこんな目に遭うの。 ・自分だけ勝手なことは言ってもらえない。仕方ないかな。 ○ おじいさんたちに「頑張ってね。」と声を掛けられた美咲はどんな気持ちだっただろう。 ・練習ができてうれしい。 ・ありがとう。感謝したい。 ・譲ってくれたおじいさんたちのためにも頑張って練習しよう。 ◎ 美咲の「一日一日を大切にしたい」という思いには、どんな気持ちが込められているのだろう。 ・普通の生活ができるようになってうれしい。 ・これからは勉強や部活動をもっと頑張りたい。 ・当たり前の生活ができることに感謝したい。	○ 全国大会が中止になり出場できなくなった美咲のつらい気持ちに共感させる。 ○ 普通の学校生活を送れるようになった過程にはたくさんの人の応援があったことを確認する。 ○ 前向きになった美咲の心情の変化に共感させるとともに、「当たり前の生活」が送れるのはいろいろな人に支えられているからだということに気付かせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの生活からいろいろな人に支えてもらった経験を思い出し、ワークシートに書いてみよう。 ・そのときは当然だと思ったが、今思えばありがたかった。 ・感謝すべきなのに、できなかった。	○ 誰にどのようなことで支えられたり、助けられたりしたか、具体的に書かせる時間を確保する。
終末	4 教師の説話を聞く。	(活用上の留意点・工夫を参照)	○ 余韻をもって授業を終わらせる。

8 いのち 生命の輝き

【資料本文 p.29】

1 資料について

- ・ この資料は、大田原日本赤十字病院の看護部長として勤務されていた河野順子こうのさんの講話を基に作成したものである。
- ・ 忙しい毎日に疲れ、わがままを言って家族を困らせていた主人公の「僕」が、河野さんの話を聞いて、初めて命について真剣に考えていく。
- ・ 群馬県御巢鷹山おすなかやまでの飛行機墜落事故の際の救助活動について取り上げた。命と向き合っ
て仕事をされた河野さんの体験から命の尊厳について考えさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

生命はかけがえのない大切なものであり、そのかけがえのない自他の生命をいとおしむ
心情を育てる。 〔3－(1) 生命尊重〕

とちぎの子どもたちへの教え「自他の生命を尊重する」と関連

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 生まれたときのエピソードや名前の由来などを発表する。	○ 生まれたとき、どんなエピソードがあったか。自分の名前にはどんな思いが込められているか。 ・ 親戚がたくさん家に集まり、お祝いをしてくれたらしい。 ・ 明るく優しい子になってほしいという思いが名前に込められている。	○ 自分が大切に思われ、育てられてきたことを感じられるようにする。 ○ プライバシーに配慮する。
展開	2 資料を読み、「僕」の気持ちを考える。 3 河野先生の気持ちを考える。	○ 忙しい毎日を駆け足で送っている「僕」は、自分の命についてどのように考えているだろう。 ・ 毎日の生活で精一杯で、何をするために生まれてきたのかわからない。 ・ 生きているのが当たり前だから特別意識していない。 ○ 河野先生はどんな気持ちから自分を奮い立たせ、男の子の下半身を作ったのだろう。 ・ このままでは、ご家族にお返しできない。 ・ 何も分からないまま亡くなってしまった男の子がかわいそう。 ・ 亡くなっても一人の人間として大切にしよう。	○ 自分が「僕」と同じような気持ちを抱いたことがあることに気付かせる。 ○ 河野先生の「三日も山の中にいて、痛かったでしょうね。」の言葉に注目させる。

	<p>4 河野先生の話 を聞いてからの 「僕」の気持ちを 考える。</p>	<p>◎ 河野先生の話聞いて「僕」はど んな気持ちになっただろう。 ・胸が締め付けられるような気がし た。 ・亡くなった男の子に対する河野先 生の優しさに感動した。 ・人間は亡くなくてもなお、生きて いたときと同じように大切にされ るものなんだ。</p> <p>○ いつもの光景がキラキラ輝いて見 えたのはなぜだろう。 ・与えられた命を精一杯輝かせて活 動しているように感じたから。</p>	<p>○ 河野先生の行動は命を大切 に思う気持ちから生じている ことに気付かせる。</p> <p>○ 「僕」自身の命についても同 様に感じていることに気付か せる。</p>
	<p>5 「命」を大切に するとはどうす ることなのか話 し合う。</p>	<p>○ 「命」を大切にすることは具体的には どうすることなのか。話し合ってみ よう。 ・心も体も傷付け合わないこと。 ・互いに助け合うこと。 ・自他を尊重し合うこと。 ・友達を大切にすること。 ・精一杯活動すること。</p>	<p>○ 出された意見をまとめ、日 常生活の中で命を大切にしてい ることに気付かせる。</p>
<p>終末</p>	<p>6 教師の説話を 聞く。</p>		<p>○ 話し合ったことを十分に想 起させる。 ○ 日常生活の中でお互いを思 いやることが生命を尊重する ことにつながる等の話をする。</p>

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 河野さんの講話から、命とはどんな状況にあっても尊ばれるものであることをじっくりと考えさせる。
- ・ 「命を大切にすること」は、具体的にどうすることなのか、様々な意見を出させ、それらを日常生活で意識していけるようにする。
- ・ 事後の活動として、「家族からの手紙」を活用して、自分の命が多くの人々に祝福され支えられて誕生し、今に至るのかを知る機会を設ける。また、それは誰もが同じであることに気付かせ、本時のねらいである自他の生命の尊重に迫りたい。

4 参考資料等

- ・ 「ひびきあう心」(栃木県道徳学習資料集《中学校編》平成14年3月 栃木県教育委員会)から再掲載

9 三個の小石 — 僕の田中正造研究 —

【資料本文 p.33】

1 資料について

- ・ 1841年（天保12年）、下野国安蘇郡旗川村（現在の佐野市）に生まれた田中正造は、足尾銅山鉍毒事件や谷中村買収問題に生涯を捧げた。私心を捨てて民衆のために立ち上がった彼の姿は現代でも光彩を放っており、義人の代名詞にもなっている。しかし、ここではその偉業を列挙するのではなく、生徒にも共感できる等身大の人間として描いている。
- ・ 主人公の「僕」が、正造について研究する機会を得て、郷土の博物館や図書館に足を運び、その資料を通して彼の生き方を学ぶ。身近な逸話から田中正造への認識を深め、自己を省みる契機としたい。

2 展開例

(1) ねらい

人間として生きる喜びを追求し、強く、気高く生きていこうとする態度を育てる。

〔3－（3）強さ・気高さ・生きる喜び〕

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 虚より実、外見ではなく本質という点で正造の考え方は一貫している。「三個の小石」はその象徴であり、さらに言えば、彼の生き方そのものである。ここでは、現存する遺品から視野を広げていき、やがては生きた人間として正造を捉えるよう配慮したい。
- ・ 生徒たちが今後、田中正造について、多少なりとも従来とは異なる角度からその人物像を想起できれば、この資料は意味をもつことになろう。郷土の先人が生徒の内面に根付き、自我形成の一助となるよう、継続的に支援したい。
- ・ 授業の終末で紹介する正造の逸話としては、例えば、次のような内容が考えられる。

正造は、様々な問題に対して、常に現地に赴き、自分の目で確かめ、徹底的に調査し、その上で改善を訴えるという姿勢で取り組んだ。そのため、正造の言葉には常に説得力があった。また、遊水池を造るために強制的に立ち退かされた谷中村の人々をはじめ、たくさんの家々を訪ね歩き、直接会って話し、人々を勇気付けた。家々の中には、正造が訪ねてくると、自分たちの食べ物足りなくても正造に振る舞う家もあった。長い政治活動で、正造の財産はほとんど無くなっていた。正造が亡くなったとき、枕元には菅笠と袋が一つ置かれていた。袋の中身は小石3個、聖書、大日本帝国憲法、日記帳3冊、河川調査の原稿、鼻紙少々、川海苔の入った瓶だけだった。亡くなる前年、自分の死が近いことを悟ったのか、わずかに残っていた土地と家屋も地元の人々に寄付していた。正造の葬儀には、渡良瀬川沿岸の被害民をはじめとする4万人とも5万人ともいわれる人々が参列し、その死を悼んだ。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」（栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会）から再掲載

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 田中正造について知っていることを発表する。	○ 田中正造について、どんなことを知っているか。 ・小学校の社会科で学習した。 ・足尾の鉱毒問題と戦った人。 ・天皇に直訴しようとした人。	○ 人名を告げるだけでなく、顔写真をパネルや電子黒板等で提示すると想起させやすい。
展開	2 資料を読み、田中正造の気持ちを考える。	○ 正造が自分を厳しく叱った母に深く感謝したのはなぜか。 ・立場の弱い相手を一方的に責めた自分を叱ってくれたから。 ・地位や立場に関係なく、道理の通らないことは許されないということを教えてくれたから。 ○ 正造は、父が示した「死んでから～よき人となれ」という歌をどう受け止めたか。 ・人生に後悔を残さぬよう、常に良心に従って、正しいと信じたことをやり抜きなさい。 ・自分がなぜ政治の道を志したのかを常に忘れず、人々のためになる政治をやり抜きなさい。	○ このとき母親から叱られたことが、その後の正造の生き方にどんな影響を与えたのかを考えるよう助言する。 ○ その後、正造が政治活動にどのように取り組んだのかに着目させる。
	3 「僕」の気持ちを考える。	◎ 「僕」は、「小石からのメッセージ」をどのようなものだと考えたのか。 ・見せかけの美しさや立派さに惑わされず、本質を見極めて判断し、行動することが大切である。 ・本当に大切なことは何なのかを常に自分に問いながら判断し、行動することが大切である。	○ 正造の日記に着目させ、正造は常にどんなことを心掛けて行動していたのかを考えるようにさせる。
	4 自分を振り返り、いつも心掛けていることについて考える。	○ 毎日の生活の中で、人としてこうありたいと思っていることは何か。 ・相手の立場を考えて行動する。 ・「努力は裏切らない」という言葉を信じて努力を続けている。	○ 心掛けていてもなかなか守ることができないという発言にも共感を示すようにする。
終末	5 田中正造についての逸話を聞く。		○ 活用上の留意点・工夫を参照のこと。

10 那珂川とともに

【資料本文 p.37】

1 資料について

- ・ この資料は、那珂川での「釣り」を素材としている。孝志たちは大きなコイを追いかけて禁漁区（魚を保護する区域）に入ってしまう。「誰も見ていないから」「1匹ぐらいなら」と友達に言われ、きまりを守ることとの間で葛藤する孝志。漁業組合のおじさんの話から、きまりを守ることの大切さに気づき、社会の一員としてよりよく生きようとする姿を描いた。
- ・ 指導に当たっては、法やきまりは自分たちの生活や権利を守るためにあり、それを遵守する意義をわきまえた上で、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育てたい。
- ・ 那珂川は自然豊かな川である。那珂川の美しさに触れ、自然に親しみ、自然と共に生きていこうとする心を育てることにも配慮している。
- ・ 栃木県内の湖や河川で魚を捕る場合の制限（禁止期間、禁漁区、漁具や漁法の制限、全長の制限）は「栃木県内水面漁業調整規則」や「遊漁規則」等によって規定されている。

2 展開例

(1) ねらい

法やきまりの意義を理解するとともに、遵守することの大切さを自覚し、秩序と規律ある社会の実現に努めていこうとする態度を育てる。 [4－(1)法やきまりの遵守]

とちぎの子どもたちへの教え「法やきまりの理解を深める」と関連

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 展開前段で、「誰も見ていないから」「1匹ぐらいなら」と友達に言われたことと、きまりを守ることとの間で葛藤する主人公の気持ちを問い、人間理解を深めたい。
- ・ さらに、「漁業組合のおじさんの話を聞いた孝志はどんな気持ちだっただろう。」という中心発問を設定し、価値理解や他者理解を深めていきたい。
- ・ 展開後段で、今までにきまりを守るべきかどうか悩んだことはなかったか、今までの自分を振り返らせる。
- ・ 終末は「私たちの道徳」を活用し、何のためにきまりやルールがあるのかを考えさせる。

4 参考資料等

- ・ 「平成25年度遊漁のしおり」（栃木県漁業協同組合連合会）
- ・ 那珂川南部漁業協同組合ホームページ <http://www.mt-crow.net/naka-nanbu/>
- ・ 「栃木の魚図鑑パンフレット」（なかがわ水遊園）
- ・ 挿絵協力 わたなべまひろ 亘辺真弥氏
- ・ 写真 烏山大橋から撮影

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 自分たちの生活と関わりが深いきまりやルールについて話し合う。	○ 身の回りには、どのようなきまりやルールがあるか。 ・ 交通ルール。 ・ 校内生活のきまり。 ・ 部活動のきまり。	○ 身の回りの様々なきまりやルールを確認する。
展開	2 資料を読み、孝志の気持ちについて考える。	○ 大きなコイを見た孝志はどんな気持ちだっただろう。 ・ 今まで見たこともない魚だ。 ・ つかまえてみんなに見せたい。 ○ 「孝志も釣ろうよ。」と言われたときの孝志はどんな気持ちだっただろう。 ・ 大きなコイを釣ったら自慢できる。 ・ 誰かが見ていたらどうしよう。 ・ 二人の誘いを断れない。 ・ きまりは守らないといけない。 ◎ 漁業組合のおじさんの話を聞いた孝志はどんな気持ちだっただろう。 ・ きまりを守ればよかった。 ・ 僕たちの勝手な行動で、迷惑を掛けてしまった。 ・ きまりを守ることは大切なことだ。 ○ 釣り上げた魚を戻してあげたときの孝志はどんな気持ちだっただろう。 ・ きまりのおかげで、魚の数が守られている。 ・ きまりを守ることで、釣り人みんなが釣りを楽しむことができるんだ。 ・ きまりを守ってこそ、本当の釣りの喜びがある。	○ コイを見つけて興奮している孝志の気持ちを考えさせる。 ○ 釣りをしようか、きまりを守るべきか、葛藤する孝志の気持ちを考えさせたい。多様な考えを引き出したい。 ○ 自己中心的な行動をしてしまったことへの反省、きまりやルールを守ることの大切さに気付く孝志の気持ちを考えさせる。 ○ きまりを守って釣りを楽しんでいる孝志の気持ちを考えさせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでにきまりやルールを守るべきかどうか悩んだことはなかったか。	○ 導入の場面を再提示する。
終末	4 きまりやルールの意義について考える。		○ 「私たちの道徳」を活用し、なぜきまりは必要なのか自分の考えを書かせる。

11 この子たちに輝く場を

【資料本文 p.41】

1 資料について

- ・ この資料は、1958年（昭和33年）、特殊学級教員だった川田昇^{かわ た のぼる}さんが、特殊学級の子どもたちと山を開墾し、「こころみ学園」という施設を自力で作り、園生と職員が寝食を共にしながら、葡萄^{ぶどう}や椎茸^{しいたけ}の栽培を中心にした農作業を通して、園生の自立を目指す活動が描かれている。また、川田さんは、地域社会への貢献も目指していた。やがて、その思いは、施設の園生・地域の人たち・施設に関わる多くの人たちに広がっていった。
- ・ 創設者の川田昇さんの思いや願いを知ることにより、この社会の全ての人々が、自分も他人も、ともどもよりよく生きようとしていることを自覚し、互いに助け合い、励まし合う社会をつくっていかうとする社会連帯について考えさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

社会生活において、一人一人が協力し、互いに助け合い、励まし合おうという社会連帯について自覚し、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。

〔4－（2）社会連帯〕

とちぎの子どもたちへの教え「地域社会の一員としての自覚をもつ」と関連

(2) 展 開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 事前に「こころみ学園」について、保護者や家族等が知っているようなことがあれば、話を聞いておくようにすると動機付けとなる。
- ・ 導入に、資料本文の農作業の様子、収穫祭の様子、川田昇さんの写真等を提示することにより、生徒に興味・関心等をもたせるようにする。
- ・ 「障害者はかわいそう」といった偏見で捉えるのではなく、対等な同じ人間として地域社会の中で、相互に支え合う存在であることなどを踏まえた上で、互いに助け合う気持ちを深められるようにする。そのためにも、資料を通して川田さんの言動、地域の人々の関わりを確認していく必要がある。
- ・ 展開前段を終えたところで、補助発問として、「障害のある人たちも含め、地域社会で生活している人々が心温かく暮らすためには、何が必要だろう。」と投げ掛け、確認する方法もある。

4 参考資料等

- ・ 協力者 社会福祉法人こころみる会
指定障害者支援施設こころみ学園管理者 越知真智子氏
- ・ こころみ学園ホームページ <http://cocowine.com/>
- ・ 川田 昇 著 「山の学園はワイナリー」 テレビ朝日事業局出版部
- ・ 川田 昇 著 「ぶどう畑の笑顔」 大揚社
- ・ 写真提供…こころみ学園

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 資料について、関心を高める。	○ この写真は、どこだろう。何をやっているのだろう。 ・山、斜面。 ・農作業。 ・お祭り。	○ 「こころみ学園」の園生たちの農作業の様子、収穫祭の様子を写真等で見せることにより、関心をもたせる。
展開	2 資料を読み、川田さんの気持ちを考える。	○ 川田さんはどんな思いで「椎茸栽培」を始めたのだろう。 ・地元の農家の人たちから栽培を教えてもらえる。 ・山を荒廃から救える。 ・地場産業が盛んになる。 ○ 園生と地域の人たちが触れ合う姿を見ていた川田さんは、どんな気持ちだっただろう。 ・協力関係ができてうれしい。 ・園生を受け入れてくれてありがたい。 ・この関係をずっと続けたい。 ◎ 「こんな日が来るとは、夢にも思わなかった」と語った川田さんの思いとはどのようなものだっただろう。 ・地域の人だけでなく、多くの人たちが、それぞれの立場で協力してくれている。 ・精一杯やってきたことが、多くの人たちに受け入れられている。 ・子どもたちを救いたいと始めた葡萄や椎茸づくりが、多くの人を喜ばせている。	○ 進んで社会と関わらせたいという思いがあったことに留意する。 ○ 共に手を携え、協力している姿を感じ取らせる。 ○ 多くの人たちがそれぞれの立場で、直接的、間接的に助け合い、励まし合っていることに感激しているという様子に気付かせる。 ※ 左ページの活用上の留意点・工夫を参照し、価値理解を図るための発問をする方法もある。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでに、地域の人とのつながりで、心が温まった経験はなかったか。 ・地域清掃できれいになった場所を見たとき、地域の人たちと協力する大切さを改めて感じた。 ・祭りのお囃子に参加し、色々な年齢の方と交流ができ、たくさんのかたを教わっている。 ・老人ホームを訪問したとき、お年寄りからたくさん励まされ、元気をもらった気がした。	○ できた自分もいれば、できなかった自分もいる。両者の場合があることを伝え、どちらの自分が思い出されるか振り返らせる。 ○ できなかった自分を語る生徒には、それをみんなの前で言えたことを認め励ます。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ よりよい社会のために、互いに助け合い、励まし合うという社会連帯の大切さについて、共感させる。

1 資料について

- ・ この資料は、大正から昭和にかけて、北海道で献身的な医療活動を続けた高橋房次^{たかはしふさじ}さん（小山市出身）の足跡、人となりをまとめたものである。
- ・ 医術は病根となる内面的な苦悩まで取り去ることであると考えた主人公は、病気だけでなく、差別と偏見によって傷付けられていたアイヌの人々をはじめとして、誰に対しても公平に接した。この資料を通して、よりよい社会の実現のために、正しいと信ずることを積極的に実践し、あらゆる差別や偏見をなくすよう努力することが重要であることに気付かせたい。

2 展開例

(1) ねらい

正義を重んじ、誰に対しても公正、公平にし、差別や偏見のない、よりよい社会の実現に努めていこうとする態度を育てる。 [4－(3) 差別や偏見のない社会の実現]

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 房次が北海道白老町で病院長になった1922年（大正11年）3月は「水平社宣言」が出されたり、「アイヌ神謡集」が書き上げられたりした年である。信念をもって、自己に忠実によりよく生きた房次の生涯を通して、社会の在り方について理想を求める気持ちや正義感について考えさせたい。
- ・ 単に「誰にも親切なお医者様」というイメージでなく、遠く北海道に渡り、アイヌの人々の苦しみや開拓民の人々のつらさを自らのものとしたという点を押さえたい。そのためには、社会科の学習との関連を考え、3年生で扱うことが適切と考える。また、これを機会に、アイヌの人々に対する人権問題に関心をもつとともに正しく理解させるようにしたい。
- ・ 房次自身の人権意識を支えているものは、故郷の母の存在が大きい。母の「人のためになるような人間に育ってほしい」という願いが房次の信念となって、多くの人々に感謝される生涯を送ったこと、そして、房次自身、自己に忠実に生きたことにも気付かせたい。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」（栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会）から再掲載

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 アイヌの人たちについて知る。	○ アイヌの人たちについて、どんなことを知っているか。 ・北海道に住んでいる。 ・アイヌ語や伝統文化がある。 ・差別や偏見で苦しんでいる。	○ 事前に資料のリード文について触れることで内容を理解しやすくする。
展開	2 資料を読み、房次の気持ちについて考える。	○ 房次がアイヌの人たちの健康状態を調査してどんなことを感じたのだろう。 ・昔は無菌地帯だったため、伝染病に対する抵抗力がない。 ・病気だけでなく、差別や偏見によって傷付いている。 ◎ 房次はどのような思いで病院の待合室に仕切りを設けなかったのだろう。 ・アイヌの人たちが差別されているのはいけないことだ。 ・誰に対しても公平であるべき。 ・仕切りを設けないことで、差別という悪い習慣をなくしていきたい。 ・仕切りを設けないことで、人間の心の中にある仕切りを取り払いたい。	○ アイヌの人たちがおかれている現状を知ることから医療活動を始めていった房次の人となりを確認する。 ○ アイヌの人たちに対する差別は当時慣例であり、房次の行動は例外であったことを押さえる。 ○ 「差別はいけないこと」で終わってしまいそうな場合には、「なぜ、房次は差別がいけないと思っているのだろう。」という補助発問をして考えを深めていく。
	3 差別をなくすために大切なことを考える。	○ 差別のない世の中にするために必要なこと、大切なことは何か。 ・あらゆる差別を許さないという強い気持ちを持ち、誰に対しても公平に接する。 ・自己中心的な考えを改め、常に弱者に対する温かい気持ちをもつ。 ・正しいと思うことを積極的に実践していく。	○ 差別をなくすためにこの資料から学んだことは何か、多様な意見を引き出したい。
	4 これまでの自分の生活について振り返る。	○ これまでに、差別や偏見によって困っている人に対して自分ができたこと、あるいはできなかったことはどんなことか。	○ 前の発問を受けて、自分のことについて振り返る。
終末	5 人権作文を聞く。		○ 価値に関わる内容の作文を紹介する。

13 「茂中の森」の下草刈り

【資料本文 p.49】

1 資料について

- ・ この資料は、茂木町のシンボルであり、茂木中学校の全校生徒と保護者や地域が学校林として手入れをしている「茂中の森」を素材としたものである。
- ・ 3年生である主人公の勇介は、昨年までと同じように自分の分担だけしっかりやればよいという気持ちで下草刈りに参加していたが、上級生としての役割を果たしている聡の態度に接し、自分の役割と責任を自覚し、新たな気持ちで作業に取り組むようになる。勇介の姿から、自己が活動する集団における役割と責任について考えさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

自己が活動する集団における役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めようとする態度を育てる。

〔4－（4）役割と責任の自覚〕

とちぎの子どもたちへの教え「様々な集団の意義について理解する」と関連

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ この資料は、主人公である勇介が最上級生としての役割や責任を自覚する内容であるが、展開後段で、自己が活動する様々な集団における取組を振り返り、集団生活の向上のために、役割や責任を果たした経験を想起させたい。
- ・ 終末で、集団の中で自分が果たすべき役割があること、そう考えて活動してきた場面があることを知らせ、自分から積極的に活動する意欲を高めていく。

4 参考資料等

- ・ 茂木町立茂木中学校の自作資料を改作

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 集団の中で活動した経験を想起する。	○ (特別活動や部活動等の写真を見せて) 共通していることは何だろう。 ・たくさん人がある。 ・一生懸命取り組んでいる。	○ 日頃、集団で活動することが多いことに気付かせる。
展開	2 資料を読み、勇介の気持ちを考える。	○ 「初めて下草刈りをする直人と一緒にしないでよ。」と言った勇介はどんな気持ちだっただろう。 ・まだ間に合う。 ・下草刈りなんて、そんなに特別なことじゃないのに。 ○ 聡に「おい、休憩だぞ。」と再び声を掛けた勇介はどんな気持ちだっただろう。 ・早く休みたい。 ・聡、早くこっちに来いよ。 ・分担は終わってるじゃないか。 ・何で、2年生のところをやっているんだ。 ◎ 水を飲み干して、聡に「じゃあ、手伝ってくるか。」と声を掛けた勇介はどんな気持ちだっただろう。 ・きれいな桜を来年も咲かせたい。 ・後輩に引き継いでいきたい。 ・僕も3年生としてできることをしよう。 ・最上級生として、後輩を支えたい。 ○ 集団が活動の目標を達成するためには、一人一人がどのような心掛けをもつことが大切なのだろう。	○ 下草刈りの作業内容はよく分かっているという勇介の気持ちを捉えさせる。 ○ 勇介が自分の分担場所の草刈りに真面目に取り組んでいたことを押さえる。 ○ 自分の分担場所だけ草刈りをすればよいと考えていた勇介の気持ちに気付かせる。 ○ 内容項目「勤労」や「愛校心」に関連する意見も取り上げ、それらも大切であることを押さえ、「最上級生の一人として果たすべき役割と責任」につなげていく。 ○ 役割と責任を自覚し、集団のために努力する大切さを確認する。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでに自分の役割と責任を自覚して、集団のために努力したことはなかったか、話し合ってみよう。 ・委員会活動のときに、委員会の活動が活発になるように、アイデアをたくさん出した。 ・運動会で赤組団長として、みんなをまとめて応援できるようにした。 ・全校奉仕活動で、自分の分担だけでなく、先生方がしていた準備や片付けなど、周りの仕事も手伝った。	○ 自分の今までの取組を振り返り、どのように集団と関わったらよいかも問うようにし、生活と関連させて考えられるようにする。 ○ 学校外の集団活動につなげることも考えられる。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 集団の中で活躍している場面の写真を提示して、一人一人の活躍が集団全体の力になっていることを話す。

14 あるサッカー選手の決断

【資料本文 p.53】

1 資料について

- ・ 人は一人では生きていけない。目的や立場を異にする様々な集団に属しながら助け合って生活している。人が集団の一員としてよりよく生きていくためには、自分が様々な集団に属していることを自覚し、それぞれの集団の意義をよく理解するとともに、役割や責任を果たして集団の目標を達成する中で、自己の実現も図っていくことが大切となる。
- ・ 中学生の時期は、集団の一員としての所属感や連帯感を強く求め、深く関わり合って相互理解を深め、人間的な成長を遂げるのによい時期である。しかし、その一方で自己の思いのみを先行させてしまいがちな時期でもある。自分が所属する集団にのみ目が向きすぎると、自分たちの利益のみを追求し、自分と関わりが薄いと思われる集団や成員に無関心であるばかりか排他的にさえなりかねない。
- ・ この資料は、実在するサッカー選手をモデルに一部創作を加えたものである。資料の中で「私」は、両親や指導者、サポーターなど、自分を支えてくれる人々の存在を意識し、サッカーを通して自分が果たすべき役割や責任についての認識を深めていく。また、チームから自由契約の提示を受けたとき、家族や地域における自分の役割や責任を顧みることにより新たな目標を見付け、前向きに生きようとしている。
- ・ この資料を通して、自分が様々な集団に属していることを自覚し、それぞれの集団における役割や責任を考え、果たしていくことの大切さに気付かせたい。

2 展開例

(1) ねらい

自己が所属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚して集団生活の向上に努めようとする態度を育てる。 [4－(4) 役割と責任の自覚]

とちぎの子どもたちへの教え「様々な集団の意義について理解する」と関連

(2) 展開 (ページ右)

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 資料の中で「私」の「プロのサッカー選手になる」という個人としての夢は変わらない。自分を支えてくれる人々に対する認識の深まりから、サッカーを通じて自分が所属する「集団」についての捉えが広がり、集団の目標を達成する中で、自己実現を図ろうとしている。この資料を通じて、集団の目標の達成を目指すことは、必ずしも一人一人が個性を失うことではないことを生徒に捉えさせたい。
- ・ 展開後段で自分を振り返る際には、自分の役割や責任を果たせた経験だけでなく、集団に所属している自覚がないまま過ごしてきたという経験や、役割や責任に気付いていても果たせなかったという経験についても意図的に取り上げるようにする。そうすることで、弱い心と向き合いつつも、これからは積極的に役割や責任を果たしていこうという前向きな気持ちをもたせたい。
- ・ 教師による説話は、生徒と同じくらいの時期に、部活動に夢中になるあまり学級の当番活動がよい加減になってしまったことなど、特定の集団の活動に目が向きすぎて、他の集団に迷惑をかけてしまった自分の経験を話すとよい。教師が自分の経験を開示することにより、生徒も話を素直に、また現実味をもって聞くことができる。

4 参考資料等

- ・ 写真提供…株式会社栃木サッカークラブ

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 日常生活において役割や責任を感じるのは、どんなときかを想起する。	○ 日頃、集団の中での役割や責任を感じることはあるか。 ・部活動でのポジションや役割。 ・生徒会活動や学級での役割。 ・家族の中での役割。	○ どの集団における役割や責任なのかを具体的に聞くようにする。
展開	2 資料を読み、「私」の気持ちを考える。	○ 「将来は農家を継いでくれ」と言いながらも一番のサポーターになってくれた両親に対して、「私」はどのような思いを抱いていたか。 ・必ずプロ選手になって、いつか両親に楽をさせたい。 ・両親の希望に沿う進路を選択せず、少し申し訳ない。 ○ 故障やポジションの変更があっても「力が湧いてきた」ときの「私」を支えていたのは、どのような思いだったか。 ・支えてくれる両親のためにも必ずプロ選手になる。 ・サポーターのためにもチームをJ2に昇格させたい。 ◎ チームを自由契約になり、イチゴ農家を継ぐことを決めたとき、どんなことを考えたか。 ・両親の年齢を考えれば、いつまでも自分の夢だけを追うわけにはいかない。 ・イチゴ作りを通じて知り合った仲間と交流し、地域の農業を支えたい。	○ 個人の目標であっても、本人の努力だけでなく、家族など周囲の人々の支えがあって初めて追求することが可能となることに気付かせる。 ○ その頃の「私」は、プロ選手になるという個人の目標と同時に、J2昇格というチームの目標のために努力を続けていたことに気付かせる。 ○ このときの「私」は、少なくとも「チーム」「家族」「学習サークル」の三つの集団に属していたことを押さえる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ 現在、自分が所属している集団はいくつあるか。それらの集団の中で、役割や責任を果たせたことや果たせなかったことはあるか。	○ 集団の数を問うことで、これまで所属していることを意識してこなかった集団にも目を向けさせる。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 活用上の留意点・工夫を参照する。

15 ねずみ観音の思い出

【資料本文 p.57】

1 資料について

- ・ この資料は、野澤一郎さんが母と息子を追悼するために自ら著した文章を基に構成したものである。立志伝中の人物を扱う場合、その業績やそれを収めるまでの過程などに注目しがちであるが、あくまでも本人と家族の絆に焦点を当てた内容になっている。
- ・ 核家族化や少子化が進行している現代においては、家族間のつながりが希薄化していることが懸念されている。特に、思春期にある中学生の時期には、父母や祖父母に対して反抗的になりがちである。資料を通して、親が子に対して強い愛情をもっていることを認識させることによって、父母や祖父母への接し方を考えさせる機会にしたい。

2 展開例

(1) ねらい

親の子に対する深い愛情を自覚させ、父母に対する敬愛の念を深めようとする態度を育てる。〔4－(6) 家族愛〕

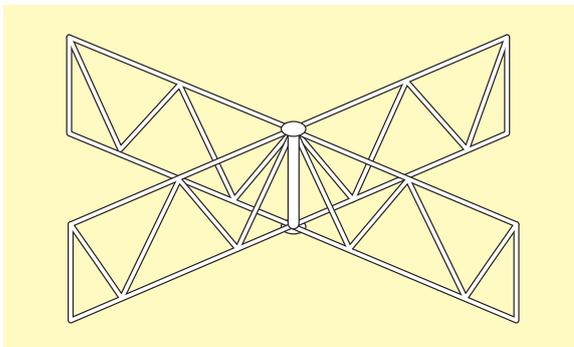
(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 本時では、野澤一郎さんの業績などに触れる時間はないので、事前に業績やプロフィールなどを紹介しておくといよい。
- ・ 導入に当たっては、体育館の鉄筋構造の写真などを提示すると効果的である。
- ・ ひとり親家庭の生徒、両親と離れて暮らしている生徒等がいる場合には十分に留意した上で、資料を扱うようにする。
- ・ 保護者に事前に協力を依頼して、子を思う親の心情を手紙に書いてもらって生徒に配付したり、保護者の代表に書いてもらった手紙を教師が朗読したりする終末も考えられる。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」（栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会）から再掲載
- ・ 株式会社 巴コーポレーション ホームページ
<http://www.tomoe-corporation.co.jp/rittai/daia1.html>



野澤一郎さんが開発した立体構造建築「ダイヤモンドトラス」

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 災害時に学校の体育館が避難所として利用される理由を考える。	○ 地震や豪雨のときに、学校の体育館が利用されるのはどうしてだろう。 ・広いから。 ・丈夫だから。	○ 体育館が頑丈であることを確認し、その構造の発明者は本県出身の野澤一郎さんであることを説明する。
展開	2 資料を読み、一郎さんの気持ちを考える。	○ 母親がねずみ観音の思い出話をしているとき、一郎さんはどんな気持ちで聞いていたのだろう。 ・母親に感謝したい。 ・自分の時間がなくなって申し訳ない、かわいそう。 ・今の自分があるのは、母親の努力のおかげだ。 ◎ 戦争で息子を失った一郎さんは、どんな気持ちになったのだろう。 ・跡取りにしようと思って厳しく育てたが、それが叶わずに残念である。 ・自分が母親にしてもらった優しさで息子に接することができなくて申し訳ない。 ○ 一郎さんの母親や息子を思う姿は、私たちにどんなことを教えてくれたのだろう。 ・自分が親から受けた愛情を子どもに返していきたい。 ・親が子どものためにしていることに、今は気付かないかもしれないが、それは子どものためを思っていることである。	○ 一郎さんの幼少時に、家族のために身を粉にして働いている母親の状況を理解させた上で、一郎さんの気持ちを考えるようにする。 ○ 今度は自分の息子を思う一郎さんの気持ちに考えさせる。 ○ 状況に応じて、「一郎さんはなぜ、息子に厳しく接したのだろう。」という補助発問を行う。 ○ 本時でねらいとする道徳的価値に対して、生徒の価値理解がどの程度図られたのか確認する。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでに、家族から大切にされていると感じた経験や、家族のよかれと思っての言動を無にしてしまった経験はあるか。また、そのときはどんな気持ちだったか。	○ これまでの経験を振り返って具体的に書くことができるように、考える時間を十分に確保する。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 父母を敬愛することで充実した日々を過ごした経験や、父母の思いやりを無視して後悔した経験等を紹介する。

参考資料

とちぎの子どもたちへの教え

～人として、してはならないこと、すべきこと～

平成24年1月 栃木県教育委員会

教育基本法において教育の目的として人格の完成が示されています。人格の完成を目指すということは、児童生徒が自由な意思と責任をもって行動し、自己実現を図るとともに、社会の中で他者と関わりながら生きていけるようにすること、即ち、一人一人の社会的自立を目指して一步一步育てていくことです。こうした社会的自立の基盤としての道徳性を養うことを目的とする教育活動が道徳教育です。

各学校ではこれまで、道徳教育に力を入れてきているところですが、規範意識の希薄化や責任感の欠如など、道徳性が十分身に付いていない子どもも見られる状況があります。その背景としては、子どもたちに道徳の時間で深めるもと（素地）が備わっていないことが考えられます。

このような状況を踏まえ、県教育委員会では、「人として、してはならないこと、すべきこと」を「とちぎの子どもたちへの教え」として示すこととしました。これらは、今回の学習指導要領に示された各学年段階での配慮すべき重点を踏まえ、子どもたちの社会的自立に向けて、発達段階に応じて重点化したものであり、学校や社会で生活する上で、ぜひ身に付けてほしい事項です。

先生方には、この「とちぎの子どもたちへの教え」を基に、日常的な生活場面等を含むあらゆる教育活動の中で、繰り返し「だめなものはだめと教える」、あるいは「教えるべきことはしっかりと教える」ことにより、道徳的行為が子どもたちの内面から自発的に現れるよう道徳性を育てていただくために、このリーフレットを作成しました。



とちまるくん

とちぎの子どもたちへの教え ～人としてしてはならないこと、すべきこと～

- 各学校では、児童生徒、学校及び地域の実態を考慮し、適宜、事項を追加するなどして、指導を行うことが重要です。
- 家庭や地域社会においても積極的に「教える」ことが効果的であり、学校と家庭や地域社会とが連携を図りながら推進していくことも大切です。

中学校

自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすること

法やきまりの理解を深める



小学校

高学年

法やきまりの意義を理解すること、相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けること、集団における役割と責任を果たすこと、国家・社会の一員としての自覚をもつこと

法やきまりの意義を理解する



小学校

中学年

集団や社会のきまを守り、身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けること

約束やきまを守る



小学校

低学年

あいさつなどの基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないこと

あいさつをする



【推進に当たっての留意点】

- 学校生活全体で、機会を捉えて教える。
- 学校全体で共通理解を図り、同一歩調を進める。
- 「分かっているはず」と思い込まない。
- 家庭や地域社会への協力を呼びかける。

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行われ、 そこで道徳性が養われます

⇒ 「とちぎの子どもたちへの教え」は、道徳教育の一環として、
学校の教育活動全体で、意図的、計画的に、繰り返し指導していきます

どんな場面で教えるの？



「とちぎの子どもたちへの教え」は、これまでも学校の教育活動の様々な場面で指導してきました。

今後は、より一層、意図的、計画的に、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動、日常的な学校生活の場面等を含め、あらゆる教育活動を通じて繰り返し指導していくことが大切です。

道徳の時間では、児童生徒一人一人が 道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考え（小学校）や 道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚（中学校）を 深めることが重要です

⇒ 道徳の時間は、児童生徒一人一人が、自己を見つめ、
主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間です

道徳の時間は、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、それらを補充・深化・統合する場であり、道徳的実践力を育成することをねらいとしています。

つまり、学校の教育活動全体で指導される「とちぎの子どもたちへの教え」も、道徳の時間において補充・深化・統合することが求められます。

その際には、児童生徒がねらいに含まれる道徳的価値について主体的に考えられるようにすることが大切です。

どのような指導を心がけるの？



とちぎの教育が目指す子ども像の実現に向けて 「とちぎの子どもたちへの教え」を 子どもたち一人一人に身に付けさせていきましょう

とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）

【教育目標】

とちぎの教育が
目指す子ども像

- 心身ともに健康な子ども
- 主体的に考え表現できる子ども
- ねばり強く頑張る子ども
- 自他の存在を尊重し協同する子ども
- すすんで社会とかわり行動する子ども

栃木県教育委員会事務局学校教育課

〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20 TEL 028-623-3392 FAX 028-623-3399

本資料は、栃木県ホームページからダウンロードができます。

http://www.pref.tochigi.lg.jp/kyouiku/gakkoukyouiku/shou_chuugakkou/index.html



R100

「とちぎの子どもたちへの教え」の活用にあたって

栃木県教育委員会事務局学校教育課

小・中学校の先生方がリーフレットを活用するにあたっては、次のことに留意くださるようお願いいたします。

1 「とちぎの子どもたちへの教え」の自校化について

リーフレットに示した「とちぎの子どもたちへの教え」については、学校・学年・学級及び児童生徒の実態や課題と関連付けをし、どのような場面でどのように指導をしていくのかを検討して、繰り返し教えていくことが大切です。

そのためには、次年度の道徳教育全体計画を立てる際、「とちぎの子どもたちへの教え」を踏まえて、道徳教育や各学年の重点目標を設定し、自校の実態に応じた活用ができるようお願いします。

なお、その際、児童生徒、学校及び家庭・地域の実態に応じて、「とちぎの子どもたちへの教え」に指導すべき事項を追加するなどして、活用を図ることも考えられます。

2 児童生徒への個別指導の対応について

日常的な生活場面等の中で、「とちぎの子どもたちへの教え」に示す「人として、してはならないこと」をしてしまった子どもの行動に対して、後回しにするのではなく、その場で端的に戒めたり論したりするなど、その場面における適切な対応を行うことが重要です。

指導されたことが理解できなかつたり、納得できていなかつたりする場合には、少し時間を置いた上で、共感的な態度で、その行動の根本にある子どもの心の葛藤等と向き合ったり、教師間で子どもの抱える問題について話し合ったりするなど、その背景を明らかにし、その上で、子どもに継続的に関わったり、温かく見守ったりしていくことが大切になります。

〈指導事例集の配布〉

平成24年度は、「とちぎの子どもたちへの教え」に示した事項について、学校の教育活動の中で教えていく場面を想定した指導事例集を作成し、各学校へ配布する予定です。

今年度は、上記に示した留意事項に従って取り組まれるようお願いいたします。

現職教育資料

◇はじめに

- 1 道徳教育の基本的な考え方
- 2 教える道徳教育について
- 3 道徳の時間の進め方

◇おわりに

学校における道徳教育の充実

～道徳教育の基本的な理解のために～

◇ はじめに

子どもたちの生活習慣の乱れやコミュニケーション能力の低下、責任感の欠如、モラルに欠ける行動など、子どもたちの道徳性に関わる問題が指摘される中、道徳教育の充実が求められています。

本号では、学校における道徳教育の基本的な理解が図られるよう、道徳教育の考え方や道徳の時間の進め方を確認するとともに、本県で推進している「教える道徳教育」との関連等についても解説しました。特に教職経験の少ない先生方が疑問に感じると予想されることなどを会話形式で構成していますので、現職教育等でぜひ御活用ください。(※文中の(小p.〇〇・中p.〇〇)は小学校及び中学校学習指導要領解説道徳編の出版ページを示しています。また、書体を変更したり、下線を付したりしています。)



日頃、「道徳」について、どんな課題を感じていますか？

「教える道徳教育」
って何？
道徳って教えるの？

「道徳教育」と
「道徳の時間」は、
どう違うの？

「道徳の時間」は、
どのように授業を進
めたらいいの？

道徳に関する用語は難しい。
「道徳的実践力」と「道徳的実践」
は何が違うの？

道徳の授業をやってても児童生
徒は変わらないような気がする。
効果が感じられない。



学校における道徳教育を再確認してみましょう。

1 道徳教育の基本的な考え方



「道徳教育」と「道徳の時間」は、どう違うの？

主な指導場面と目標が違います。
道徳教育は、「学校の教育活動全体」で、「道徳性」を養います。
道徳の時間は、「年間35時間の授業」で、「道徳的実践力」を育成します。



○ 学習指導要領から「道徳教育」と「道徳の時間」の関係は以下のように整理されます。

道徳教育

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、**学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。**

道徳性を養う

《参考》

「第1章 総則」の「第1 教育課程の一般方針」の2 中段

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

「第3章 道徳」の「第1 目標」前段

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳教育

道徳の時間

各教科

外国語活動

道徳性

総合的な学習の時間

特別活動

道徳教育は、道徳の時間、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動など、学校の教育活動全体を通じて**道徳性を養う**教育活動です。

道徳の時間は、他の教育活動の中核的な役割や性格を持ち、**道徳的実践力を育成する**教育活動です。

道徳の時間

道徳の時間においては、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する。

道徳的実践力を育成する

《参考》

「第3章 道徳」の「第1 目標」後段

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、**道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め**（道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め）、道徳的実践力を育成するものとする。 ※（ ）は小学校、（ ）は中学校

《参考》道徳の時間の役割を「道徳の時間を かなめ 要」として学校の教育活動全体を通じて行うもの」とし、「要」という表現を用いて道徳の時間の道徳教育における中核的な役割や性格を明確にした。（小p.7・中p.7）

道徳の時間は、道徳教育の「要」



道徳に関する用語は難しい。
「道徳的実践力」と「道徳的実践」は何が違うの？

「道徳的実践力」は、目に見えない内面的資質です。
「道徳的実践」は、具体的行動です。



- 道徳性を構成する諸様相を「小学校低学年 2-（3） 友達と仲よくし助け合う」の内容項目を例にすると、以下のように整理されます。

- 道徳的心情：「友達と仲よくして、助け合いたいな」
道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情
- 道徳的判断力：「友達と仲よくして、助け合うことはよいことなんだ」
それぞれの場面において善悪を判断する能力
人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力
- 道徳的実践意欲と態度：「友達と仲よくして、助け合っていこう」
道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性
- ・道徳的実践意欲：道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き
 - ・道徳的態度：それらに裏付けられた具体的な道徳的行動への身構え

道徳的実践力

- ・人間としてよりよく生きていく力
- ・道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような**内面的資質**
- ・主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を包括するもの

- 道徳的行動：友達と仲よくし助け合う
- 道徳的習慣：いつも友達と仲よくし、助け合っている
長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方

道徳的実践

道徳性

道徳的実践力が育つことによって、より確かな道徳的実践ができる。

道徳的実践力

- 道徳的心情
- 道徳的判断力
- 道徳的実践意欲
- 道徳的態度

道徳的実践

道徳的実践を繰り返すことによって、道徳的実践力も強められる。



学習指導要領解説道徳編において、「道徳性の育成においては、道徳的習慣をはじめ道徳的行動の指導も重要である。（小p.28・中p.29）」とあるように道徳の時間とともに各教科や外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、そして日常生活で行う道徳的実践の指導も大切にしましょう。

2 教え育てる道徳教育について

道徳性の育成においては、道徳的行為（道徳的実践）の指導も重要であることは、前頁でも確認しました。道徳教育は、道徳の時間はもとより、あらゆる教育活動を通じて行われるものです。では、道徳の時間以外の道徳教育とは、どのような教育活動なのでしょう。『「とちぎの子どもたちへの教え」指導事例集』では、道徳的実践の指導として、道徳の時間以外の道徳教育の具体的な指導場面を示しました。



「教え育てる道徳教育」って何？ 道徳って教えるの？

「教え育てる道徳教育」とは

人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育むために、「教えること」（主として道徳的実践の指導）と「育てること」（主として道徳的実践力の育成）をともに大切にしながら、互いに関連付けて指導する教育活動のことです。

「教え育てる道徳教育」概念図

人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育みます。

教える

道徳的実践の指導

・ 日常生活場面等を含むあらゆる教育活動の中で、道徳的価値を意識させながら、道徳的行為が身に付くように繰り返し指導します。



関連付け

育てる

道徳的実践力の育成

・ 道徳の時間を中心に、道徳的価値の自覚が深まるように指導したり、自己や人間としての生き方について深く考えさせたりします。

とちぎの子どもたちへの教え
～人として、してはならないこと、すべきこと～

とちぎの子どもたちへの教え
人として、してはならないこと、すべきこと



栃本県教育委員会



子どもたちの中には、道徳性が十分に身に付いていない子どももいますが、その原因の一つに「教わるべきことをしっかりと教わっていない」ことが考えられます。

そこで、県教育委員会では「道徳的実践の指導」の充実に向けて、日常生活場面等を含むあらゆる教育活動を通して、「人として、してはならないこと、すべきこと」をしっかりと教えられるように、「とちぎの子どもたちへの教え」を示しました。

また、道徳の時間では、「とちぎの子どもたちへの教え」の各指導事項との関連を十分に図った上で、考えさせたり、気付かせたりしながら「道徳的実践力を育成」し、子どもたちが各学年段階で必要な道徳性を身に付けられるよう、「教え育てる道徳教育」を推進しています。



次のページでは、「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」の具体的事例について確認します。

「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」について

「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」について、「友人への悪口」を例にして考えてみましょう。

道徳的実践の指導

悪口をやめさせる指導



悪口はやめなさい。
言われてた人は、
どんな気持ちになりますか？



道徳的実践力の育成

悪口をやめようと思う
内面的資質の育成



道徳の時間が中心
・思いやり ・友情
・公德心 ・寛容
・善悪の判断 等

【道徳的実践の指導】

悪口を言っている場面を見逃さず、悪口をやめるよう指導するとともに、悪口に関わる道徳的価値を確認することで、今後も悪口を言わないようにさせます。機会を逃さず、その場で指導することが重要です。

【道徳的実践力の育成】

道徳の時間を中心に、悪口に関わる道徳的価値について、考えを深めたり、より高い価値に気付かせたりしながら、悪口をやめようと思う内面的資質を育てます。計画的、発展的に指導することが重要です。

子どもたちの道徳性を高めるためには、「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」を互に関連付けて指導することが重要になります。例えば、道徳的実践の指導場面を道徳の時間の振り返りで生かしたり、道徳の時間で深めた道徳的価値に基づいて、道徳的実践の指導の充実を図ったりすることが考えられます。

○道徳的実践の指導（「教える」）の留意点

大切なことだからといって一方的に教え込むのではなく、時には考えさせる時間をとりながら、子どもを納得させていく指導が重要です。また、指導に当たっては、関連する道徳的価値を十分に意識させるとともに、一人一人の子どもの中にある「よりよく生きたい」という思いに気付かせるような配慮も必要になります。

上の例で言えば、その場面を見逃さず、悪口をやめさせる指導とともに、小学校低学年の内容項目1-(3)や2-(3)を意識して、悪口を言うことが、なぜいけないのかを考えさせたり、悪口を言われた相手の気持ちを考えさせたりしていくことが、「教える」ことになります。

『「とちぎの子どもたちへの教え」指導事例集』では、右のような具体的な指導事例を示しました。詳しくは指導事例集を参照してください。

小学校低学年 人の悪口を言わない

指導する内容項目
1-(3) おいことと悪いことの違いをし、よいことと悪いことから、(関係)40
2-(3) 友達とよくし、あつあつ、(関係)40

指導の場面

この授業の授業は、道徳の時間を中心に行われ、道徳の時間を活用して自分自身や周囲の人々を思いやることを目指しています。そのため、相手に自分の思いを伝えることが、悪口になってしまうことがあります。適切な言い方、相手に思いを伝えることが、悪口を言わないための大切なポイントです。

どうして友達に悪口を言ったのですか？

悪口を言うのはよくないから・・・

でも、それは、わざとそうなのかな？

わざとじゃないけど言っちゃった・・・

はい、上手に上手に言わなかったからかな。悪口を言っちゃったのは、悪口を言っちゃったからかな。悪口を言っちゃったのは、悪口を言っちゃったからかな。悪口を言っちゃったのは、悪口を言っちゃったからかな。

悪口を言っちゃったのは、悪口を言っちゃったからかな。悪口を言っちゃったのは、悪口を言っちゃったからかな。悪口を言っちゃったのは、悪口を言っちゃったからかな。

【指導上の留意点】

- 悪口を言う場面が起きたら、その場を止めて振り返り、悪口を言うことが、なぜいけないのかを考えさせることが大切です。
- 悪口を言う場面が起きたら、悪口を言われた相手の気持ちを考えさせていくことで、自分の思いを相手に伝えることは、よりよい関係を築くことに繋がっています。

3 道徳の時間の進め方

「教えること」(道徳的実践の指導)に焦点を当てて解説しました。ここでは、「育てること」(道徳的実践力の育成)の場である、「道徳の時間」について確認します。



道徳の年間指導計画を、指導者の考えや児童生徒の様子から判断して、他の教育活動を行ったり、内容を変更したりしていいの？



指導者の恣意による不用意な変更や修正は行われるべきではありません。

○こんなことはありませんか。

【事例】 教職3年目で、中学校2年生の担任をしている太郎先生が、遅案を書きながら、来週の「道徳の時間」について、年間指導計画を確認しました。

- | | | |
|---|-------|---|
| ア | 指導の時期 | 7月 第3週 |
| イ | 主題名 | 規則と義務 内容項目 4-(1) |
| ウ | ねらい | 秩序と規律ある社会を実現するために、社会の一員として自らに課せられた義務を確実に遂行しようとする態度を育てる。 |
| エ | 資料 | 「二通の手紙」 (文部省 中学校 社会のルールを大切に作る心育てる) 以下略 |



夏休み前なので、学級活動に変更して、夏休みの生活について話し合う方が大切だと思うな。



夏休み前で、生徒が落ち着かない。主題を「節度・節制」に変更して道徳の授業をすると、効果が期待できるかも。

道徳の時間の年間指導計画とは

学習指導要領には、「年間指導計画は、…意図的、計画的に作成されたものであり、指導者の恣意による不用意な変更や修正が行われるべきではない。」(小p.72・中p.75)とあります。

道徳の時間の年間指導計画は、重点的な指導や内容項目間の関連を考慮しながら、年間を見通して全ての内容項目を取り上げられるよう作成したものである点を重視しましょう。

変更や修正が必要になった場合

変更や修正を行う場合は、児童(生徒)の道徳性の育成という観点から考えて、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、少なくとも(道徳教育推進教師を含め)学年などによる検討を経ることが望ましい(必要である)。そして、変更した理由を備考欄などに記入し、今後の検討課題にすることが大切である。(小p.72・中p.75) ※ ()は中学校



「道徳の時間」の年間指導計画は、計画的、発展的に指導できるように作られているのですね。年間指導計画に従って、授業をしようと思います。



教師自身が「道徳の時間」を大切にしなければ、児童生徒は、「道徳なんて適当でいいんだ。」とってしまいます。まずは、1時間1時間の「道徳の時間」を丁寧に扱きましょう。



「道徳の時間」は、どのように授業を進めたらいいの？

道徳の時間の学習過程は、一般的に下の表のように、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。さらに、展開を、資料を通して話し合う前段と、資料を離れ自分のことを振り返る後段に分けることも一般的です。

1時間の授業において、各段階の意図を踏まえて指導することが大切です。

○道徳の時間の一般的な学習指導過程（小p.84・中p.p.88-90）

過程	小学校	中学校
(1) 導入	主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階	主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人の意識をねらいの根底にある道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚に向けて動機付ける段階
(2) 展開	主題のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値についての自覚を深める段階	道徳の時間のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める段階
(3) 終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ段階	1時間の授業のまとめをする段階 ・生徒の考えを整理する ・今後の発展につなぐ



道徳の時間の質を高めるために

「展開」の段階で、道徳的価値の自覚を深める活動を丁寧に行いましょう。

○道徳的価値の自覚とは

・道徳的価値についての理解

「～は大切なんだ」

「～とはこういうことなんだ」

・自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられること

「これまでの自分は～についてどうだったのか」

・道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること

「もっと～であるようになりたい」



次のような授業は、道徳の時間の特質から離れていますので気を付けましょう。

- ・資料の読み取りを中心とする進め方 → 内容を把握することが目的ではありません。
- ・子どもや学級が抱える問題の直接的な解決の話合い → 特別活動ではありません。
- ・車椅子体験、アイマスク体験など体験活動に終始した授業 → 体験が目的ではありません。
- ・エンカウンターなどコミュニケーションや人間関係を深めるスキル学習
→ スキルを高める時間ではありません。 など



道徳の授業をやっても児童生徒は変わらないような気がする。
効果が感じられない。

道徳の時間は、次のような性格をもっています。

- (1) 自分を見つめることを通して見えない心を鍛える
- (2) いつか将来、適切な行為を選ぶことを期待する
- (3) 即効性を求めない

生活に例えるなら、「道徳の時間」は毎日の食事のようなものです。
毎日、規則正しく食事をすることで、健康な体がつくられるように、年間指導計画に従った道徳の授業により、道徳的実践力が育成されていきます。
健康な体がつくられると、よりよい生活が送れるように、道徳的実践力が育成されると、道徳的実践ができるようになります。
だからこそ、計画的、発展的な指導が大切なのです。



○ 道徳の時間における道徳的実践力の育成

道徳的実践力を育てることを目的とする道徳の時間においては、その特質を十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切である。道徳的実践力は、徐々に、しかも、着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされなければならない。(小p. 31・中p. 32)

◇ おわりに

人間は本来、人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。この願いの実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立つ。道徳教育とは、人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である。(小p. 15・中p. 15)

子どもは誰もよりよく生きたいという願いをもっており、その願いを実現できるよう、子どもたちの道徳性を意図的・計画的に養っていく必要があります。そのためには、各学校の全体計画で道徳教育の基本方針を示すとともに、学校としての重点目標を明確にすることで、学校で行う道徳教育に方向性をもたせることが重要となります。

県教育委員会で推進している「教え育てる道徳教育」は、学年段階ごとに示した五つの指導事項を重点に、全ての教育活動で「教え」ていき、道徳の時間を中心に「育て」ていくことで、子どもたちの道徳性を養っていく教育活動です。各学校においては、ぜひ「とちぎの子どもたちへの教え」に指導すべき事項を追加するなど自校化してほしいと思います。

本号は、道徳教育に不安をもつ教員であっても、自信をもって道徳教育を実践できるようにという願いを込めて編集しました。本号で解説した内容は、あくまで入口です。ぜひ実践を積み重ねて、子どもたちのよりよく生きようとする力を伸ばして行ってほしいと思います。

本号に掲載した「教え育てる道徳教育」指導資料に関連する PDF データは県のホームページからダウンロードできます。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m04/education/gakkoukyouiku/shouchuu/doutoku.html>

【ホーム > 教育・文化 > 学校教育 > 小・中学校 > 「教え育てる道徳教育」指導資料】

栃木県道徳教育郷土資料集（中学校編）作成委員

（所属、役職等は平成25年12月末日現在）

	氏 名	所属・役職等
1	吉 本 恒 幸	聖徳大学大学院 教授
2	松 下 俊 介	宇都宮市立雀宮中学校 教諭
3	信 田 容 子	鹿沼市立北押原中学校 教諭
4	宮 下 律 子	市貝町立市貝中学校 教諭
5	佐 藤 香	小山市立小山中学校 教諭
6	内 藤 祐 子	高根沢町立北高根沢中学校 教諭
7	郡 司 聡 子	那須塩原市立三島中学校 教諭
8	福 田 弘 美	足利市立坂西中学校 教諭
9	腰 塚 雅 之	河内教育事務所 指導主事
10	櫻 井 洋 之	上都賀教育事務所 指導主事
11	青 柳 晋 作	芳賀教育事務所 指導主事
12	土 方 勝	下都賀教育事務所 指導主事
13	関 一 浩	塩谷南那須教育事務所 指導主事
14	江 連 悦 子	那須教育事務所 副主幹
15	上 野 善 巳	安足教育事務所 副主幹
16	坂 本 弘 志	総合教育センター 副主幹
17	小 栗 克 樹	総合教育センター 指導主事

なお、学校教育課においては、次の者が事務局員として本書の編集に当たった。

課長	齋 藤 宏 夫
主幹	野 中 和 明
課長補佐	田 村 一
副主幹	堀 江 賢
指導主事	村 石 紀代美
〃	石 渡 美 穂

表紙写真：鹿沼市横根高原から望む日光連山



いきいき栃木っ子3あい運動
学びあい、喜びあい、はげましあおう

「教え育てる道徳教育」指導資料
ふるさと とちぎの心
栃木県道徳教育郷土資料集（中学校編）教師用指導書

平成26年3月発行

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田1-1-20

栃木県教育委員会事務局学校教育課

TEL 028-623-3392

FAX 028-623-3399

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m04/education/gakkoukyouiku/shouchuu/doutoku.html>

【ホーム>教育・文化>学校教育>小・中学校>「教え育てる道徳教育」指導資料】
